

プログラム	
1日目	台北松山空港から羽田空港に到着、大倉山学生寮チェックイン 協定研究生学生証交付
2日目	各研究室に配属、実験研究活動
3日目～ 5日目	各研究室で実験研究活動
6日目	各研究室の学生が東京近郊を案内
7日目	休日
8日目	各研究室で実験研究活動
9日目	ミニシンポジウムで研究発表と懇親会
10日目～ 12日目	各研究室で実験研究活動
13日目	各研究室の学生が東京近郊を案内
14日目	三菱みなとみらい技術館見学
15日目～ 19日目	各研究室で実験研究活動
20日目	各研究室の学生が東京近郊を案内
21日目	各研究室の学生が東京近郊を案内 引き続き自費にて活動継続／帰国は29日 羽田空港から台北松山空港へ

今年度は7月2日、国立清華大学の大学院生5名と引率の黄暄益教授が台北から羽田空港に到着、慶應の学生が空港まで出迎え、慶應義塾大学大倉山ドミトリにチェックイン。その後、矢上キャンパスで協定研究生の学生証の発給を受けました。5名はそれぞれ、事前に打ち合わせた研究室に配属され、平日は配属研究室の学生とともに実験研究活動に従事しました。休日には、配属された5つの研究室の学生が輪番で東京近郊を案内しました。今年度は三菱みなとみらい技術館、鎌倉、三田キャンパスにある大学本部などを訪問しました。また、日本化学会本部を訪問し、川合眞紀会長との懇談に臨んだほか、同会国際部のインタビュを受けました。この様子は、「化学と工業」誌10月号に掲載されました。7月9日午後には、140名を超える参加者を集めて毎年恒例のミニシンポジウムを開催しました。岡田英史理工学部長の開会のご挨拶に引き続き、国立清華大学の学生5名のほか、慶應の化学系研究室の大学院生7名、計12件の研究発表があり、プレゼンテーションやデイスカッションが英語で活発に行われました。若手の教員のほかに黄教授にも座長をお引き受けいただきました。シンポジウム終了後は交流会が開催され、さらに親交を深めました。これも参加者約100名を数え、いかに学生同士が互いに興味を持つているか伺い知れる参加人数です。また協賛企業の東アジア担当者や旅行代理店の中国人ス



山田 徹
(慶應義塾大学理工学部化学科教授)

ヒューマンの構築と共同研究展開
ネットワーク

慶應義塾大学理工学部と中華民国（台湾）国立清華大学の化学系教員はお互いに長く親交があり、これを相互の学生間に発展させる

慶應義塾大学の活動報告

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第202回

Ⅱ 特別シリーズⅡ

ことを目的に独自の夏季学生交換事業を行ってきました。2019年度で7年目になりますが、17年度からの3年間はさくらサイエンスプランのご支援を得て、大学院生の受け入れによる共同研究活動を展開しました。

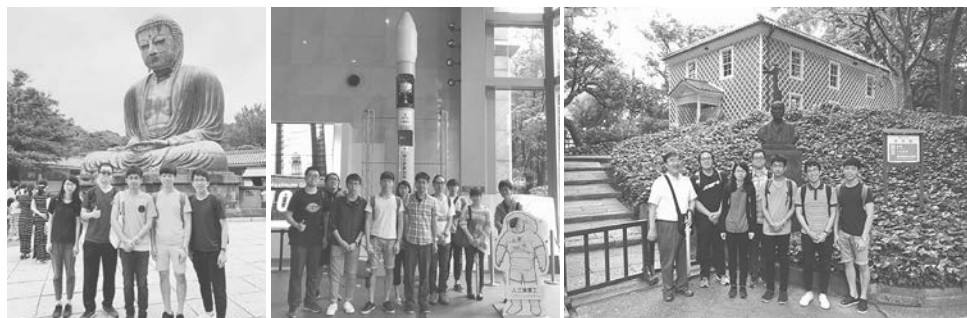
◎ 2019年度の活動

今年度は7月2日、国立清華大学の大学院生5名と引率の黄暄益教授が台北から羽田空港に到着、慶應の学生が空港まで出迎え、慶應義塾大学大倉山ドミトリにチェックイン。その後、矢上キャンパスで協定研究生の学生証の発給を受けました。5名はそれぞれ、事前に打ち合わせた研究室に配属され、平日は配属研究室の学生とともに実験研究活動に従事しました。休日には、配属された5つの研究室の学生が輪番で東京近郊を案内しました。今年度は三菱みなとみらい技術館、鎌倉、三田キャンパスにある大学本部などを訪問しました。また、日本化学会本部を訪問し、川合眞紀会長との懇談に臨んだほか、同会国際部のインタビュを受けました。この様子は、「化学と工業」誌10月号に掲載されました。7月9日午後には、140名を超える参加者を集めて毎年恒例のミニシンポジウムを開催しました。岡田英史理工学部長の開会のご挨拶に引き続き、国立清華大学の学生5名のほか、慶應の化学系研究室の大学院生7名、計12件の研究発表があり、プレゼンテーションやデイスカッションが英語で活発に行われました。若手の教員のほかに黄教授にも座長をお引き受けいただきました。シンポジウム終了後は交流会が開催され、さらに親交を深めました。これも参加者約100名を数え、いかに学生同士が互いに興味を持つているか伺い知れる参加人数です。また協賛企業の東アジア担当者や旅行代理店の中国人ス

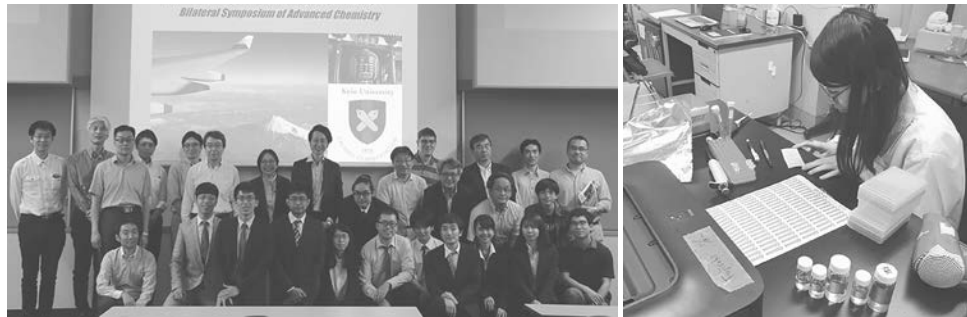
タッフの参加もあり、英語や中国語が飛び交う国際色豊かな交流会になりました。

◎ プログラムの成果

国立清華大學からの学生は募集人員を超える応募者から選抜されているだけあって、毎年の日本人学生も優秀で礼儀正しく、ホストとなるような学生も多くのこと気づかされているようです。学生交換事業では、派遣される学生は異文化の中で生活し研究活動に従事するわけですから当然多くのことを学んできません。同時に受け入れ側でも、外国に行っているほどの勇気がない学生がそれぞれの積極性に応じて、同年代の異なる文化背景の学生と普段は使用しない英語でコミュニケーションをとるため、大いに刺激を受けているようです。実際に、国立清華大學の送り出し側の教授からは、このプログラムから帰国以降、大変積極的になったとか、ある学生は浅草寺で引いたおみくじにインスパイアされて研究を達成することができた、という感謝の声をたくさんいただいたています。研究活動でも近隣分野の研究を体験することは学生の好奇心を大いに刺激し、参加の学生がその後、博士課



休日の近郊観光(鎌倉) 三菱みなとみらい技術館見学 大学本部キャンパス訪問



ミニシンポジウムの発表者とともに 実験研究活動

程に進学する割合が増えているようです。さらに、去年11月に台湾で開催された化学関連の国際会議では、学生の優秀発表賞12名のうち、このプログラムの関係学生が5名も受賞し、双方の学生の研究モチベーションの向上につながっています。学生たちは、プログラム終了後もSNSなどで相互に連絡を取り合っており、私が準備を兼ねて国立清華大學を訪問する時には慶應の学生から私の日程が連絡されており、まるで同窓会のようなにぎわいになります。学生同士でもその後の観光旅行で互いに訪問する時にも再会しているようです。時には予告なしで過去の参加学生が私のオフィスを訪ねてくることもあります。国立清華大學と慶應との夏季学生交流は台湾域内でもよく知られるところとなり、他の大学からもプログラムに参加させて欲しいという要望が来ています。ただ、学生交換は相互の指導教員の信頼関係に基づくものであり、いまのところ実現には至っていませんが、プログラムへの参加希望があった大学からの留学生が明らかに増加しています。

◎ 今後の展望

慶應で行っている国立清華大學との交流事業は慶應の大学院生の国立清華大學への派遣とセットで進めてきました。さくらサイエンスプランのご支援をいただく前にも様々な資金援助を受けながら、2015年には協定書を交わし7年間継続してきました。来年度は協定書更改ですが問題なく延長される見込みです。上述のように、博士課程への進学や国際会議でのプレゼンテーション賞受賞、台湾からの大学院生受け入れにつながるなど目に見える大きな成果が得られています。今後はこのプログラムの活動が海外インターンシップとして相互に卒業単位認定される仕組みを作ること、さらに長期の派遣と受け入れに発展し、より実質的な共同研究に成果が得られることを目指しています。さくらサイエンスプランのご支援により、両校の研究交流をベースに幅広い国際交流に展開させることができ展させていきたいと考えています。